

生物分析科学領域若手研究者ネットワーク  
バイオアナリシス研究会

馬場 健史

バイオアナリシス研究会は、生物分析科学領域の若手の研究者の交流を目的として関西を中心に活動している有志の会です。近年、質量分析、イメージング、シーケンスなどのバイオアナリシス技術のめざましい発展に伴いそれぞれの手法が高度化しており、最新の技術を使いこなすためには高い技術、ノウハウが必要になります。そこで、同じ分野の研究者が情報交換を行いながら密に連携していくことが必要になっているということで、学生を含む現場の若手研究者の交流の場として、当研究会を立ち上げさせていただきました。

2010年1月28日に有志のメンバーがあつまって第1回の会議をさせていただいたのが、この会はじまりになります。その時の参加者は、黒田浩一(京大植田研)、森坂裕信(京都大学植田研)、荻野千秋(神戸大学近藤研)、松田史生(神戸大学近藤研、現大阪大学清水研)、蓮沼誠久(神戸大学近藤研)、加藤寛子(神戸大学近藤研、現住友化学)、大西美輪(神戸大学三村研)、姉川 彩(神戸大学三村研)、原田和生(大阪大学平田研)、白井知量(大阪大学清水研、現理化学研究所)、馬場健史(大阪大学福崎研)でした。第1回の会議で当研究会の設立意義、今後の方針などについて議論させていただきました。

これまでに4回の研究会を開催し、多数の方にご参加いただいております。第2回研究会は神戸大学で開催させていただきました。九州大学大学院農学研究院生命機能科学部門 岡本正宏先生をお迎えして、メタボローム解析、代謝工学に関する話題を中心に議論させていただきました。岡本先生のご講演「生命生体渋滞学の創成：代謝制御、情報通信制御、交通渋滞制御の接点を探る」をお伺いして、代謝解析の新しい考え方を勉強させていただきました。第3回の研究会は京都大学で開催させていただきました。資生堂フロンティアサイエンス事業部 三田真史氏をお迎えして、HPLCによるタンパク質や代謝物の分離分析に関する話題を中心に議論させていただきました。三田氏から日本発の新しい分析技術である「高感度D<sub>L</sub>-

アミノ酸の同時一斉分析法」についてご講演いただき、その完成された高度なシステムに感銘を受けました。第4回は大阪大学において開催させていただきました。MassBankを運営されておられる奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 西岡孝明先生、池田 奨氏をお迎えして、メタボロミクスのデータ解析、データベースに関する話題を中心に議論させていただきました。MassBankは研究者がマススペクトルを共有することを目的とした世界で最初のpublic databaseであり、メタボロミクスにおいても有用なデータベースであることから、「MassBankの検索から構造推定まで」として解析ツールを含むデータベースの詳細について具体的な使用方法の説明も交えた形でご講演いただいた。また、パネルディスカッションでは、分析機器メーカーの方にもご参加いただき、今後のメタボロミクスにおける、データ解析ソフトウェアやデータベースの構築に関して活発な議論をさせていただきました。第5回は神戸大学において開催させていただきました。メタボロミクスとプロテオミクスの技術交流を目的として議論させていただきました。メタボロミクスとプロテオミクスのそれぞれの技術について現場の研究者の方に具体例を示しながら紹介いただき、それぞれの技術の似ているところ、違うところを比較し、次世代の分析技術の開発へつなげる技術の融合について議論させていただきました。

当研究会には、メタボロミクス、プロテオミクス、バイオセンシングなど技術開発に取り組んでおられる方から、それらの技術を用いた応用研究に取り組んでおられる方まで、また、大学や公的機関の研究者から企業の研究者、さらには装置メーカーの方まで、多岐に渡るさまざまな分野の方々にご参加いただき、大変有意義な議論をさせていただいております。また、当研究会は、京都大学の植田美充先生、神戸大学の近藤昭彦先生、大阪大学の福崎英一郎先生にもサポートいただいております。先生方が立ち上げられたコンビナトリアル・バイオエンジニアリング研究会のような強力な異分野融合ネットワークの形成を目指して、バイオアナリシス領域の研究者が集う新たなホームグラウンドをつくるべく強固なネットワークの構築に取り組んでいきたいと考えております。今後バイオアナリシスの可能性を共有いただける方の輪が広がり、さらなるバイオアナリシス技術の開発ならびに応用研究の進展を目指して活動しております。当研究会にご興味を持っていただけた方、いっしょに活動していただける方がおられましたら、下記メールアドレスにご一報いただけましたら幸いです。